

福岡県米麦大豆生産改善速報第1号

令和2年4月17日
福岡県
福岡県米麦品質改善協会

麦類の生育概況と成熟期予測

1. 本年の気象 [太宰府アメダス]

	3月19日～4月15日 (28日間)				
	平均気温	最高気温	最低気温	日照時間	降水量
	℃	℃	℃	hr	mm
本年	12.9	18.3	7.9	181	145
前年差(比)	+0.2	+0.1	±0.0	97%	269%
平年差(比)	+1.0	+1.5	+0.7	125%	131%

注) 平年は1981～2010年の太宰府アメダスの平均値。

2. 麦類の生育と今後の予測 [小麦:11月20日播種、大麦:11月25日播種]

3月19日～4月15日の平均気温は平年に比べて1.0℃高く、日照時間は25%多く、降水量は31%多かった。

出穂期は、平年に比べて小麦で12～16日、大麦で12～14日早かった。穂数は、小麦で平年並～19%多く、大麦で農産部では20%多く、筑後分場では12%少なかった。4月16日以降の気温が平年並で経過した場合、成熟期は平年に比べて小麦で4～7日程度早く、大麦で3～7日程度早くなると予測される。

3. 今後の対策

(1) 排水対策

今後の降雨は麦類の収量、品質に及ぼす影響が大きく、排水対策の徹底が重要である。降雨後、速やかに地表水の排水を図るため、排水溝の溝さらえを行い、排水口を整備する。

(2) 適期収穫

成熟期が平年に比べて著しく早くなることが予想されるため、共乾施設の運営委員会等を早めに関わり、荷受計画を作成する。

早刈りは、損傷粒の増加や品質低下を生じやすく、特にビール大麦では発芽率の低下や剥皮の発生が多くなる場合があるので、穀粒水分が25%以下になってから直ちに収穫を行う。

4. 農林業総合試験場における調査成績

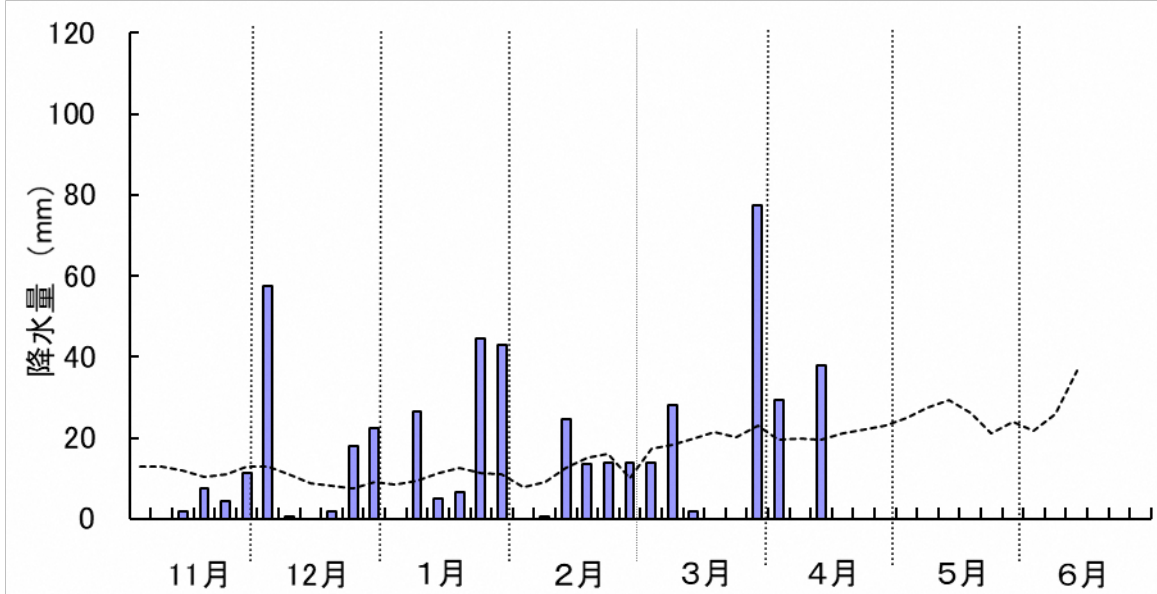
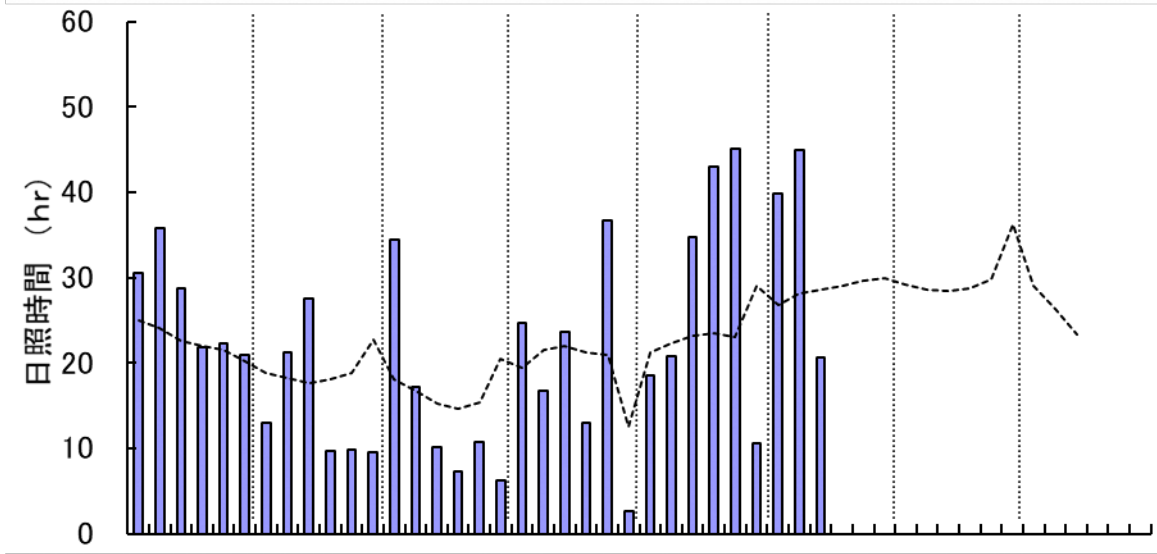
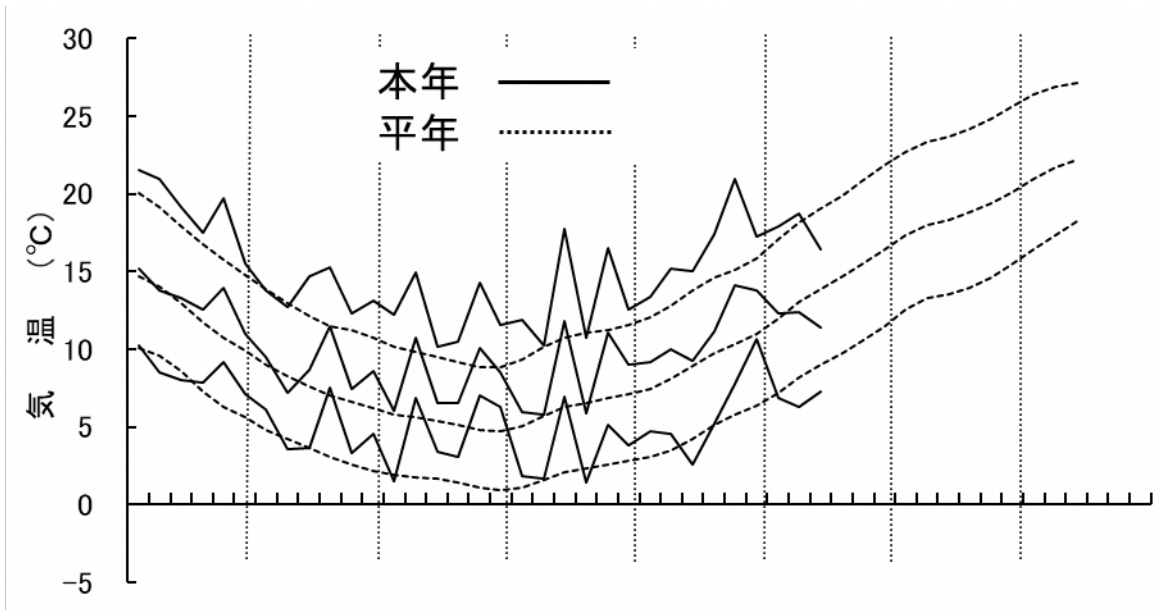
調査場所	播種期 月.日	品種名	年次	出穂期 月/日	開花期 月/日	予想成熟期 月/日	穂数 本/m ²
農産部	11.20	チゴイヌミ	本年	3/24	4/8	5/25	500
			前年比(差)	-8	-5	-1	88 %
			平年比(差)	-16	-11	-4	101 %
	11.25	ほうしゅん	本年	3/28	—	5/15	578
			前年比(差)	-4	—	+1	86 %
			平年比(差)	-14	—	-3	120 %
筑後分場	11.20	シロガネムギ	本年	3/25	4/7	5/20	520
			前年比(差)	-8	-6	-2	102 %
			平年比(差)	-12	-9	-6	98 %
	11.25	はるしづく	本年	3/22	—	5/10	517
			前年比(差)	-3	—	-1	85 %
			平年比(差)	-12	—	-7	88 %
11.20	ラー麦 (ちくしW2号)	本年	3/22	4/6	5/24	431	
		前年比(差)	-7	-5	-1	87 %	
		平年比(差)	-16	-12	-5	104 %	
11.20	ラー麦 (ちくしW2号)	本年	3/23	4/2	5/20	506	
		前年比(差)	-5	-6	-3	117 %	
		平年比(差)	-13	-12	-7	119 %	

注1) 平年値はH21～30年播の平均値。

2) 予想成熟期は4月16日以降の気温が平年並で推移した場合の予測値で、今後の平均気温が1℃上下すると成熟期は±1～2日変動する。予測法は福岡県麦栽培技術指針を参照。

3) この値は暫定値で、今後変更することがある。

4) 穂数は、農産部で全穂数、筑後分場で有効穂数の値を示す。



冬作期間の気象 (太宰府アメダス：令和元年11月～令和2年4月)